

骨粗しょう症予防の 取り組みについて

岩崎 小百合



問 市民の女性から「吉川市では骨粗しょう症の検診がありません。他の自治体では実施しているところが多くあります。閉経後の50代くらいから検診を勧め、カルシウムの摂取や運動など予防に努めれば、高齢になってからもより元気に豊かな老後を過ごせ、介護予防にもなると思います」と声が届きました。近隣の5市1町で骨粗しょう症検診を実施していないのは吉川市だけです。今まで市民から骨粗しょう症検診の要望はありましたか。また、検診を検討されたことはありますか。

答 検査のお問合せやご要望は数件ありました。平成19年度まで検査を行っていましたが、医療機関における任意の検査実施状況を鑑み、市が実施する検査としては一定の役割を終えたと判断し、終了した経緯があります。

問 “自身の骨密度に対する不安の声”が予想を超えて他にも多く寄せられています。市民の要望を反映した上で、改めて骨粗しょう症検診についてご検討いただけないか、ご見解は。

答 他市の実施例は参考にしますが、現段階で市の実施は考えていません。

公共施設の再エネは進むも 省エネ・創エネはこれから

岩田 京子



問 エネルギービジョン策定から3年。公共施設での再エネ化は進んだ。省エネと創エネが弱い。省エネによりエネルギー使用総量を小さくして、そこを再エネに切り替える、できたら地域電力を使うのがよい。近年、PPAなど、事業者が建設・運転・保守管理を行い、行政が懐を傷めずに、むしろ借地代を得ながら再生可能エネルギーの促進が可能だ。そこで①ソーラーシェアリング②公共施設の駐車場でのソーラーカーポート③配水場での水力発電等の可能性について市の考えを伺う。

答 太陽光発電は吉川市の地の利では一番効果がある。①吉川市では実績はない。令和6年4月から農地法施行規則が改正されたので、その内容やソーラーシェアリングの周知を図っていく。②ソーラーカーポートについては、具体的に検討していないが、設備費の負担、近隣への反射光の課題もあり現在考えていない。③配水場での水力発電所については、令和3年度に一事業者から提案があったが採算がとれないと実施に至らなかった。今後も模索したい。次世代につなぐため、しっかり取り組みたい。

県道越谷吉川線・大場川か ら中井地区の安全対策を

加藤 克明



問 県道越谷吉川線吉川工区分、大場川から中井地区の信号柱・横断歩道の設置について、また、議会において採択された越谷吉川線に信号柱と横断歩道の設置を求めた請願について伺う。

答 県道加藤平沼線との接続部分と中井3丁目市内市道2-303号線の接続部分2ヶ所について警察と協議、信号機と横断歩道の設置を要望してきた。このうち加藤平沼線と接続する交差点に定周期信号と横断歩道が設置される予定。市道2-303号線の接続部分については、まだ見通しが立っていない。地域の意向を踏まえながら引き続き要望していく。また、中央2丁目2番11先における請願で採択された信号機と横断歩道の設置については現在見通しが立っていない。県施工区間である吉川橋付近の4車線供用開始を踏まえ交通量調査を実施した上で改めて要望する予定となっている。9月下旬に交通量調査を実施する予定となっており、その結果を踏まえ改めて要望していく。

教員不足の現状、対策

林 美希



問 様々な事情がある現場教職員の心理的安全性が担保されない状況とならないよう留意し質問する。教職員の配置・欠員状況は。

答 年度当初時点での未配置はなかったが、9月1日時点で計6名の欠員。

問 教職員不足による児童生徒への影響は。

答 教務主任や担任以外の教員が担任業務を行う、受け持つ授業を組み替える等しているが、定期テストが実施できず1学期末評価を付けられなかった学校があった。

問 市独自の教職員確保策の有無は。

答 緊急的に市費で短時間任用をしている。

問 教職員採用は県所管であっても、できていなくて市の子供達に影響があるならばさらには尽力すべきと考える。臨時的に柔軟な働き方ができることのPRと人材の掘り起こしをすべきと考える。また、県による代員が来ない代わりに市による任用が市単費であることに納得がいかない。県にしっかり働きかけるべきでは。

答 現状は極めて由々しきこと、市の子供達にあってはならないこと。教育長会議等を通し現状を伝え、要望していく。